

## 第3章 子どもを支える学校づくり

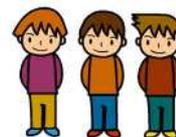
基本目標6 四日市ならではの

地域資源を生かした教育の推進



四日市ならではの地域資源を教育に生かすことにより、ふるさと四日市に誇りと愛着を持ち、社会の一翼を担う人材を育成するための教育を推進します。

- 1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進
- 2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進
- 3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実



# 1 歴史・文化・自然を活用した教育の推進

## ◆ ねらい

四日市市は豊かな歴史と自然を背景に、様々な文化が生まれ、現在も数多くの文化財や伝統芸能などが継承されています。本市のもつ地域資源を教育に活用することにより、ふるさと四日市に対する誇りと愛着を育むとともに、地域とともにある特色ある学校づくりを推進します。

## ◆ 取組指標とその評価

H30までは全60校、R1からは全59校

取組指標	基準値	H28	H29	H30	R1	R2	目標値
博物館・久留倍官衙遺跡及び地域の歴史・文化・自然等を学習教材として活用した学校数(校)	小37 中22	小38 中22	小38 中22	小38 中22	小37 中22	小26 中0	全小中学校 (59校)

・ R2年度の内訳：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館・人数制限等の対応により活用学校数は、プラネタリウム(小10)、昭和展(小20)にとどまりました。(30校中4校がプラネタリウム及び昭和展を見学したため、実際の学校数は26校となっています。)

### 1. 博物館の活用

#### ◆ 具体的な施策の現状と課題

常設展「時空街道」、学習支援展示「大昔の四日市」「四日市空襲と戦時下の暮らし」「昭和の暮らし」では体感的な展示を通して学習支援を行っています。

○ 学習支援展示・子ども博物館教室・展覧会関連行事などの体験的なワークショップの連携により、歴史・文化に対する学習効果の向上を図りました。

- ・ 四日市空襲体験者による空襲体験を語り継ぐ場を設け、博物館資料と地域の人的資源の活用を図りました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示会場やワークショップに人数制限を設けた対応になり、各学校や参加者の希望に沿った学習プログラムを十分に推進できませんでした。

○ 小中学校との授業連携

- ・ 「昭和の暮らし」展では授業の参考となる見学のしおりの作成と、能動的・主体的な見学ができるよう体験コーナーや再現展示を充実しました。会場内では、各学校の先生方による体験的な授業が多く展開されていました。



「昭和の暮らし」展活用状況の推移



再現展示で学ぶ児童



むかしの道具体験をする参加者【博物館教室】

教職員研修受入推移  
(内社会体験研修)

R2	2人(2人)
R1	15人(8人)
H30	26人(9人)

#### ◆ 今後の方向性

○ 児童・生徒が、自ら考え学ぶことができる体感的な社会教育施設として、学習支援展示等を充実させるとともに、より一層博学連携による教育効果を高めます。さらに、四日市ならではの地域資源に関する情報を積極的に発信します。

## 2. プラネタリウムの活用

### ◆ 具体的な施策の現状と課題

宇宙や星について、より理解を深めるために、プラネタリウムの機能をいかした特色ある学習投映を行っています。

#### ○ 小学校を対象とした学習投映

- ・ 各学校の校庭から見た星空で、天体の動きを記録する体験的な活動を重視した学習投映を実施しています。
- ・ 環境学習番組「アースメッセージ」の内容をより理解しやすいように、ナレーションや構成を新たに小学生向けに修正しました。

#### ○ 中学校を対象とした学習投映

- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「四日市公害と環境未来館」と連携した事業を中止しました。これにより全中学校の学習投映がキャンセルされ、特色ある学習プログラムを推進することができませんでした。

#### ○ 学びの保障の取組

- ・ 学習投映を利用できない学校に対して、移動天文車「きらら号」を各学校や自然教室に派遣し、太陽や月、惑星の観察を行いました。また、天候不良の場合は、天文教室を実施しました。

学びの保障の取組



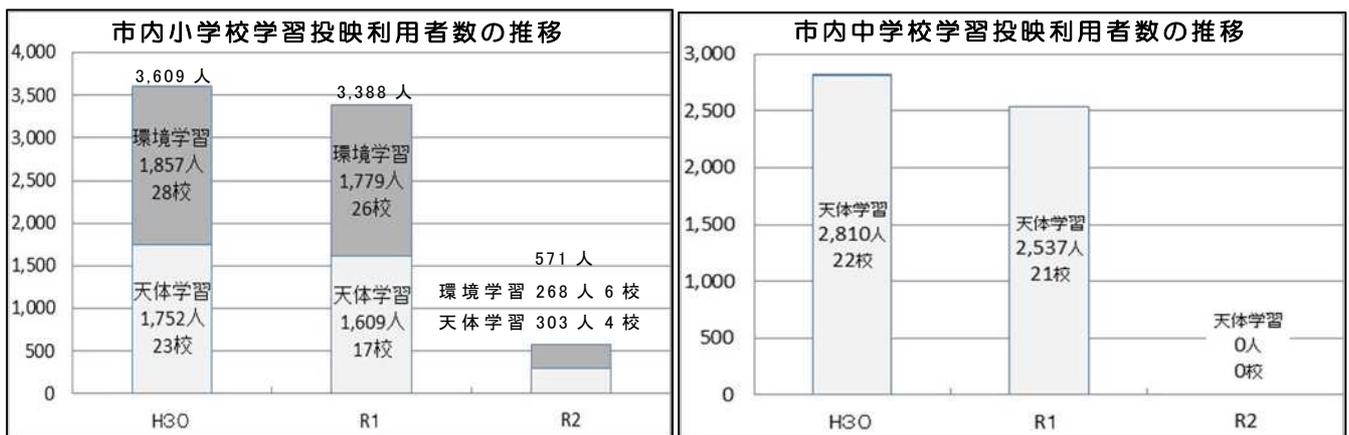
自然教室での星の観察



小学校のきらら号の様子  
＜利用した小学校＞5校



小学校の天文教室の様子  
＜利用した小学校＞1校



### ◆ 今後の方向性

- 小学3年生の「昭和の暮らし」展にあわせて3年生向けの新しい学習投映プログラムを追加し、利用促進とより深い学びの機会を提供していきます。
- プラネタリウムを利用できない学校に対して、移動天文車きらら号を活用した学びの保障に取り組んでいきます。
- 四日市公害と環境未来館との連携を深め、修正した環境学習番組をより活用していきます。

### 3. 久留倍官衙遺跡の活用

#### ◆ 具体的な施策の現状と課題

##### ○ 久留倍官衙遺跡公園の活用

久留倍官衙遺跡のガイダンス施設「くるべ古代歴史館」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、臨時休館や体験活動の中止、入館者の制限などを行ったことにより、小中学校等の来館による活用は難しい状況でした。

そうした状況の中で、令和2年11月1日にくるべ古代歴史公園が利用可能となり、くるべ古代歴史館とあわせて久留倍官衙遺跡公園がグランドオープンしました。臨時休館中に活用できなかった小学校から申請があり、くるべ古代歴史館とくるべ古代歴史公園の見学が行われました。学芸員の解説を聞きながらしっかりとメモを取る子どもの姿が見られ、四日市ならではの地域資源が学習に取り入れられている様子を感じられました。また、くるべ古代歴史館では、新型コロナウイルス感染拡大防止に留意した上で、子ども向けの企画展や講座などを開催して活用を図りました。



見学の様子



出前授業の様子

##### ○ 出前授業、体験活動

新型コロナウイルス感染症の影響により、学校は校外での学習活動が困難な中で、新規に出土土器の貸出しによる校内での学習を行ったり、出前授業により久留倍官衙遺跡を学習に取り入れたりする学校が増えました。あわせて勾玉づくりの体験活動を取り入れる学校もあり、久留倍官衙遺跡があらためて学習教材として取り上げられる機会が増えました。



体験の様子

##### ○ 発掘展 ～夏休み！子どものための考古学～

夏休み中の子どもを対象に、地域の遺跡について知ってもらうために、市内で出土した土器などの遺物を市立図書館2階で展示するとともに、歴史に関連する図書コーナーを設置しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を例年より大幅に縮小をしました。また、来館者の滞在時間短縮のためにも、リーフレットの内容を一新し、さらに自宅での学習につながるように工夫したことで、見学者の中には、興味をもってリーフレットを持ち帰る姿が見られました。

#### ◆ 今後の方向性

- くるべ古代歴史公園がオープンしたことにより、遠足や社会見学等活用の幅が広がったことを周知するとともに、学校教育においてさらに久留倍官衙遺跡が活用されるよう、リモート形式での出前授業や学習事例などを示してすすめていきます。

#### 4. 自然体験の充実

##### ◆ 具体的な施策の現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、1学期に実施予定であった中学校20校の自然教室は中止となりましたが、2学期には全小学校、3学期にはスキー実習中心として活動する中学校2校が実施しました。

感染症対策を行った上で、キャンプファイヤー、野外炊事やオリエンテーリング・ウォークラリー、カヤック等、豊かな自然の中で普段の学校生活では味わえない活動を実施しました。また、友だち同士助け合うことや協力することの大切さを学べるような活動を取り入れました。

##### 自然教室での実施プログラムと実施校数

カヤック	小 18	里山保全	小 17	創作活動	小 25
アスレチック	小 3	星座観察	小 4	自然散策	小 6
ウォークラリー	小 25	野外炊飯	小 23	御在所登山	小 3
キャンプファイヤー	小 32	ハイキング	小 9	御在所スキー	中 2

- 実施後の教職員アンケートからは、「普段味わえない豊かな自然に触れ、のびのびと活動することができた。」「様々な場面において、教師に頼るのではなく、自分たちで判断をして行動することができるようになった。」「コロナ感染防止対策として余裕を持った活動計画を行ったことで、児童がじっくり考えて無理なく活動に取り組むことができた。」等、多くの成果が見られました。



キャンプファイヤーの様子

- 一方で、「児童に時間を守って行動する力、誰かに頼ることなく自分たちで協力して活動する力をつける必要を感じた。」「活動ごとに感染症対策を行うために、スケジュールに余裕を持たせたつもりではあったが、とくに食事の準備と片付けで予想以上に時間がかかってしまった。」等、計画するうえでの課題もありました。

##### 令和2年度の施設利用状況

利用施設名	小学校（小5）	中学校（中1）
四日市市少年自然の家	37校 2,615名	2校 103名

##### ◆ 今後の方向性

- 今後も活動内容が充実するよう、小中学校ともに、自然教室のねらいや子どもの発達段階に応じてプログラムを見直し、新しいプログラムを積極的に紹介するなど、日常では体験できないような自然体験活動をより充実させていきます。
- 夏季休業中に、野外活動（飯盒炊さん）や新しいプログラムの体験に関する研修会を実施するなど、教員の指導力の向上に努めます。
- 児童生徒が安全・安心に自然体験ができるよう、活動時等における感染症対策の徹底など、引き続き、利用施設との連携に努めます。



## 2 高度なものづくり産業と連携した教育の推進

### ◆ ねらい

本市の大きな特長である多様なものづくり産業や、本市が協定を締結しているJAXA（宇宙航空研究開発機構）と連携した教育を推進することにより、科学への興味・関心を高めるとともに、社会とのつながりの中での学びを、生活の中で出合う課題の解決に主体的に生かしていこうとする態度の育成を図ります。

### ◆ 取組指標とその評価

取組指標	H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値
企業やJAXAの連携授業を受けたことがある学校数(校)	小中 16	小中 24	小中 28	小中 36	小中 42	小中 44	小中 50校

- ・ 連携授業を受けたことがある学校は2校増え44校となりました。(新規に申し込みをしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施ができなかった学校が2校あり)  
今後、より多くの学校で連携授業が実施されるよう、様々な機会では本事業の意義や連携授業の魅力について紹介し、新規校での活用を働きかけます。

- ・ 味の素株式会社東海事業所
- ・ 味の素食品株式会社三重工場
- ・ 株式会社東産業
- ・ 株式会社三重興農社
- ・ キオクシア株式会社四日市工場
- ・ コスモ石油株式会社四日市製油所
- ・ 昭和四日市石油株式会社
- ・ JSR株式会社四日市工場
- ・ 住友電装株式会社
- ・ 第一工業製薬株式会社
- ・ 大洋塩ビ株式会社
- ・ 太陽化学株式会社
- ・ 中部電力パワーグリッド株式会社
- ・ 東邦ガス株式会社ガスエネルギー館
- ・ 東ソー株式会社四日市事業所
- ・ 日本アエロジル株式会社
- ・ 富士電機株式会社三重工場
- ・ 三菱ケミカル株式会社三重事業所

### ◆ 具体的な施策の現状と課題

連携授業、社会見学、教職員研修は、現在18社の企業およびJAXAと連携しています。

内 訳	協力企業数	J A X A
連携授業	15社	○
社会見学	12社	×
教職員研修	9社	○
四日市子ども科学セミナー	12社・2団体	○

協力のために提携している企業（順不同）

### ○連携授業

令和2年度は、企業、JAXA、合わせてのべ36回の連携授業を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、実施できたのは14回でした。

#### ・ 企業との連携授業

実験や講義を通して科学の仕組みがどのように製品に生かされているかを知ったり、実験・体験を通して学んだりすることで、学校で学習する内容と実生活や実社会との関連を実感できる授業内容にしています。

環境に関する連携授業では、企業の環境対策を知るとともに、環境問題に対して自分たちに何ができるかについて考え合うなど、主体的に取り組む子どもの姿が見られました。



中学2年生「電流の性質とその利用」

## 第3章 子どもを支える学校づくり

### 6 基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

#### ・ J A X A との連携授業

宇宙に関わる豊富な映像と最新の科学技術や情報をもとに、宇宙への夢が広がり、知的好奇心を喚起する授業となっています。また、プログラミング教育の一つとして、コンピュータに指示・命令をして、模擬的な人工衛星に意図した動きをさせる J A X A プログラミングの授業も実施されました。



小学6年生「人工衛星とプログラミング」



中学2年生「コミュニケーション力を鍛えよう」

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、J A X A 講師を学校に招くことができませんでした。しかし、J A X A 講師と学校をオンラインでつなぎ、小学校ではプログラミングで模擬体験を行ったり、講師に直接質問をしたりする中で、子どもたちが宇宙への関心をもつきっかけにつなげることができました。また、中学校では、「コミュニケーション力を鍛えよう」をテーマに、図形パズルを組み立てる活動を行い、言葉だけでコミュニケーションをとることの難しさと楽しさを感じることができました。

新しい形の連携のあり方として、今後もオンラインでの授業を視野に入れながら、J A X A との連携授業を進めていきます。

○教職員研修・・・・・・・・・・令和2年度は、実施しませんでした。

○四日市こども科学セミナー・・・・令和2年度は、実施しませんでした。

#### ◆ 今後の方向性

○ 企業・J A X A との連携授業では、企業等の専門的な知識を生かしながら、実社会とのつながりを意識できる内容にするとともに、これらの連携授業がより多くの学校で実施されるよう働きかけます。

○ J A X A 連携だけでなく、企業連携でもオンラインでの連携授業が充実したものになるよう、学校・企業に働きかけ、子どもたちが多様な学びにふれる機会を確保します。

○ 「四日市こども科学セミナー」は、安全に実施できるよう感染症対策を行った上で実施します。本市の産業都市としての特長や、産業の発展と環境保全の両面の取組をアピールするとともに、子どもたちの科学への興味・関心を高める取組を継続して、各パートの内容の見直し・拡充に取り組みます。



### 3 公害対策モデル都市としての環境教育の充実

#### ◆ ねらい

本市は、地域住民・企業・行政が一体となり、産業の発展と環境保全を両立するまちづくりを進めてきました。現在も、公害対策モデル都市として歩み続けています。その環境改善の取組について学ぶことでよりよい未来の環境を考え、家庭や地域とともに継続的に環境保全に取り組む子どもを育てます。

すべての教育活動において、将来にわたり豊かな環境を持続する「持続可能な社会づくり」につながる環境教育を推進します。

#### ◆ 取組指標とその評価

H30までは全60校、R1からは全59校

取組指標	現状値 H27	H28	H29	H30	R1	R2	目標値
「四日市公害と環境未来館」「四日市市立博物館」と連携した環境教育を推進した学校数(校)	小学校 38	60	60	60	59	小 26 中 22	全小中学校 (59校)

「四日市公害と環境未来館」の見学については、感染症拡大防止の観点から、小学校5年生児童数が80人以下の26校のみの実施とし、残りの11校については次年度へ延期としました。中学校は全校見学中止としました。令和3年度は、感染状況をふまえながら見学の機会を確保し、「持続可能な社会づくり」につながる環境教育の充実を図ります。

#### ◆ 具体的な施策の現状と課題

##### (1) 持続可能な社会づくりにつながる環境教育の推進

###### ○四日市公害と環境未来館・プラネタリウムと連携した取組

令和2年度は、市内小学校(26校)が、「四日市公害と環境未来館」を見学しました。主に社会科や総合的な学習の時間と関連させて、学びを深めました。

具体的には、展示解説スタッフの話や展示から四日市公害の歴史を知るとともに、市民、行政、企業など様々な視点から四日市公害について考えました。語り部による講演を実施した学校もあり、当事者の生の声を聴く貴重な機会とすることができました。

見学後は、新聞などにまとめて発表するなど、保護者等に発信する活動を行っている学校も多くあります。また、プラネタリウムと連携し、環境番組が視聴できる見学プランを設け、環境問題や自然科学への関心を高めています。

中学校については、見学は中止としましたが、教育委員会と「四日市公害と環境未来館」が共同で学習動画を作成の上、冊子『四日市公害のあらまし』やワークシートとともに各中学校へ送付し、代替学習を実施しました。



「四日市公害と環境未来館」見学



### 第3章 子どもを支える学校づくり

#### 6 基本目標6 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

○四日市版E S D※<sup>1</sup>カレンダー（環境教育年間指導計画）の活用

各教科や特別活動、総合的な学習の時間など、関連する学習内容を年間指導計画上に配列し、教科等横断的な学習の構造を明確にしたE S Dカレンダーを全小中学校で作成し、活用を進めています。

各校が地域の自然環境や児童生徒の実態等をふまえながら、学習内容と実生活・実社会の問題をつなげて考える授業や、地域・家庭と連携した授業など、E S D推進を図る取組を進めています。

※1 E S D…将来にわたって持続可能な社会の創り手を育む教育（Education for Sustainable Development）

E S Dカレンダー（例）▶

令和2年度( )小学校版ESDカレンダー												
( 4 )年生												学年目標 : 自分の住む地域や国の発展やよびに気づき、身近な自然やくらしを大切にしようとする力を育てる
学期	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
国語			お祭りや秋の行事を学ぶ	秋の行事の思い出を語る								「ふるさと」を伝える
算数			グラフや表を使って調べよう							およそ1000の数を表す		どのよびに変わるかを調べる
社会		わたしたちの国のよび	ごみのしよびと清掃	くらしをよび変える			自然災害から守る					
理科	身のまわりの自然を調べる			夏の生き物の観察をしよう						秋の生き物の観察をしよう		冬の生き物の観察をしよう
総合		やがてとって育てよう	水生物調査				地域連携 竹炭アートに挑戦					地域しよびのけ

#### (2) 地域とともに進めるよりよい環境づくり

多くの小中学校で家庭・地域及び企業等と連携し、体験を重視した環境教育を展開しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、例年通りの取組を行うことが難しい状況ではありましたが、各校において、その学校ならではの取組が展開されています。

環境教育・環境保全活動を進めるにあたり、家庭・地域・企業と連携した取り組みを実施した学校の割合

小学校 (37校中)	中学校 (22校中)	達成率 (%)
36	17	89.8

<具体的な取組例>

- ・ P T Aと連携した全校清掃活動や里山保全活動
- ・ ゲストティーチャーとともに地域の川の水生物調査
- ・ 地域の方の協力を得ての田植え体験

#### ◆ 今後の方向性

- より効果的な学習が実施できるよう、「そらんぼ四日市活用検討委員会」を年1回開催し、見学プラン等の検討・改善を行います。
- 各学校で作成した四日市版E S DカレンダーにS D G sの視点を加え、学年間や教科間の学習の関連を図り、これからの社会や環境をよりよくしていこうとする主体的な態度や実践力の基礎を養うための教育を推進します。
- 企業との連携授業、地域の人材・環境資源等を活用した学習を支援し、持続可能な社会づくりにつながる環境教育を推進します。
- 環境保全課等と連携し、「こどもよっかいちC O 2ダイエット作戦」などの環境教育の取組を進めていきます。
- 新教育プログラムにおいて重視されている体験的な学びの充実に加え、より深い学びにつながるよう、デジタル教材等の開発についても検討していきます。